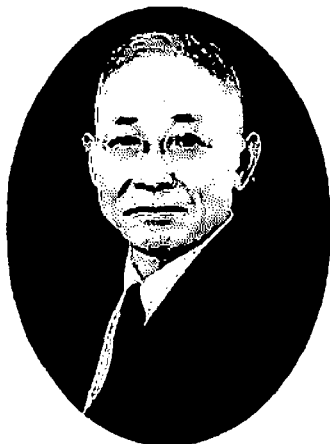


❖ 大内博士の功績と大内賞 ❖

【大内博士の功績】



おおうちひょうえ
(大内兵衛 博士)

出所：法政大学大原社会問題研究所

(大内兵衛 博士の経歴)

生年 明治 21 年 8 月
(兵庫県出身)
没年 昭和 55 年 5 月
(91 歳)
学歴 大正 2 年 7 月
東京帝国大学法科大学
経済学科卒

(職 歴)

大正 2 年 7 月	大蔵省入省
大正 12 年 11 月	東京帝国大学教授
昭和 21 年 12 月	統計委員会委員長
昭和 24 年 3 月	東京大学退官
昭和 27 年 9 月	統計審議会会長
昭和 32 年 3 月	統計審議会会長退任

戦後のわが国の経済と国民生活の復興・安定のために正確な統計が必要とされたが、戦争の過程を通じて統計資料も新たに統計を作る体制もほとんど破壊状態に置かれていた。

このため、わが国の統計及び統計制度の改善が緊急の課題となり、当時の内閣の要請を受けて大内博士が中心となって、これらの改善策の検討と企画が行われた。その結果、昭和 21 年 12 月に統計委員会が設置されたことに伴い、わが国における統計の基本法である統計法（昭和 22 年法律第 18 号）の立案に参画された。

同委員会は、この法律により新たに統計法に定める指定統計の指定等の事務を行うほか、わが国官庁統計の改善・発達に関する責任官庁とされ、大内博士はその委員長に就任された。

以来、大内博士は、官庁統計機構の整備・充実、統計体系の整備のための各種統計調査の実施の調整、国際統計活動との連携のために尽力され、戦後のわが国の統計及び統計制度の改善・発達のために大きな足跡を残された。わが国の現在の統計制度の基盤は、この時期に確立されたものである。

【大内賞の制定】

大内賞は、大内博士の業績を記念して、博士が統計委員会委員長を退任されるに当たり寄せられた寄付金等を基金に、昭和 28 年 3 月、わが国統計界の最高荣誉として、わが国の統計の進歩に貢献した者を顕彰し、広く統計関係者の士気の高揚と統計知識の普及に寄与することを目的として制定されたものである。